

# 家政系教科教育と情報教育の連携について

山陽女短大 ○新長章典 難波光枝 中尾雅子

- 目的** 家政系教科教育において、コンピュータを利用した情報活用能力の育成のための手段、方法、課題を整理し、プロトタイプを提示する。
- きたるべき情報社会での家政系教科教育の中のコンピュータ利用の位置づけと知識に及ぼす影響を明らかにする。
- 方法** 本報告では、家政系教科教育の中でもとりわけ食物の調理と栄養について取り上げ、コンピュータを利用した教科教育の現状を整理した。整理した状況とコンピュータ支援の方法の対比を行い、教科教育のコンピュータ利用の問題点をまとめた。問題点を考慮した調理に関するコンピュータ支援のためのソフトウェアプロトタイプモデルを提示する。
- 結果** 調査対象から判明したことは、調理の献立作成は献立作成、栄養の栄養価計算は栄養価計算と独立したものと考えていることがわかった。現在流通しているソフトウェアについてもそのほとんどが献立作成ソフト、栄養価計算ソフトという形で独立していることがわかった。
- 献立作成と栄養価計算は本来、連携した関係が存在しており、適切な栄養バランスを考えた献立の作成を容易にするためのソフトウェアプロトタイプを提示する。
- 本報告でのソフトウェアの特徴は、多人数教育を前提とした特殊な装置を用いない汎用ハードウェアの利用を前提としていること、また、比較的最近のハードウェアを利用する場合と、そうでない場合の2つのケースを提示する点にある。